

社員の皆様へのメッセージ

株式会社イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2012. 6
No.226

『TPM活動は職制の仕事であり、ボラン ティアではない』 山田先生より

先日のTPM受指導会で頂いた言葉です。
イナテックは2013年3月12日(火)に行われる
『TPM優秀賞審査』に向けて、今、全社でTPM
活動に取り組んで頂いています。

そこで山田先生から、なぜこのような厳しく
も当り前な言葉を頂いたかと申しますと、

イナテックの“改善”に対するスピードが遅い
こと
又、“未実施項目”の計画ですらたてられてい
ないこと

が、どの課にも見受けられたからです。課長
診断やTOP診断で「未実施は一件たりとも見
逃すな！」と山田先生からアドバイスを頂きま

した。そして、“不合格”を出さないこと……

つまり、「対策案はいつまでにやるかを明確に
する。」そして、よくある言い分は「〇〇に依頼
してあります。」と言って放置してあることで
す。

だから、それは職制(課長)の仕事だ!!とい
うことです。

私がいつも企業理念でお話させて頂いている
『仲良く喧嘩せよ!』と言うことです。黙ってい
ること、依頼しっぱなしでいることは、課長・係
長としての“仕事”をしていないということ
です。『これは、ボランティア』ではないのです。

TPM活動

くみつけてよかったワンポイントく

これは、TPM受指導会で山田先生から褒め
て頂いたことです。

山田先生は「ワンポイント」などの表現を「コピ
ー」とか“写真”ではなくて『手書き』でスケッチ
して下さい。と常にアドバイスを頂いていまし
た。

イナテックでは最近、多くの社員の方々が『手

書きのスケッチ』をしてもらえるようになってきま
した。それを褒めて頂いたわけです。

山田先生は何が言いたいかと言いますと、
『手書き』によって

- 一、観察力が向上する。
 - 二、構造がわかる。
 - 三、微欠陥が見えてくる。
 - 四、改善案が浮かんでくる。
 - 五、設備に強い人づくりが出来る。
- ということなんです。

イナテックはコスミックギャラリーを運営させ
て頂いています。お蔭様で芸術家の方々との多
くの出会いを頂いています。

まさしく芸術家の方は『観察力』のかたまり
なんです。一つの作品を創るのに、一本の花を
描くのに数ヶ月かけられるわけです。

一つのを数ヶ月見続ける力がすばらしい
“作品”に繋がっているわけです。

日本画で“桜”を書く時には、冬の極寒に葉
のない“桜の木”の『枝』を一本一本数週間かけ
て描き、桜の花が開花した瞬間にその枝に一枚
一枚、桜の花を描いていくそうです。

だから、どの枝にどの花びらというのはすべ

て覚えてみえるようです。簡単にはすばらしい桜は描けないということです。

手を抜けば、それだけのものなんです。イナテックTPM活動も仕事を通して『観察力』を磨いて下さい。自分を磨いて下さい。そして設備に強い人になって下さい。そして気持ち良く、楽しく、楽にいい仕事をしようではありませんか。

2013年3月12日(火)の『TPM優秀賞審査』をめざして皆で頑張りましょう。

宜しくお願い致します。

「ネット安息日」

日経の“春秋”に載っていた記事です。以前にも日経にあった記事(2013/6)ですが、日本人の一日のネットメディア接触時間は、2010年で5〜8時間。テレビを見る比率は5割を切り、ネットメディアが3割を超えたようです。

そんな中、米国の元新聞記者が、家族とともに実験に取り組んだそうです。その実験とは、「金曜日の就寝時から月曜日の朝まで、自宅のパソコンを、ネットから切り離したらどうなるか」というものでした。

実験初日。

ネット経由の映像や音楽などを欠いた家は「他人の家のようによそよそしかった」と繋がらない生活・部屋は静まり返り、思い立った疑問も天気予報もすぐには検索できず、ただ不自由を嘆いた。

数週間後、変化が訪れる。

パソコンにへばりついていた心がひきはがされ、家族水入らずの時間が蘇った。本に向かい、じっくり物事を考える習慣が戻ってきた。

ネット不在の週末が楽しみになった。と同時にデジタル機器の有益さも改めて理解できたようです。

ネットとは、自分で適切な距離をとらなくてはいけないとの結論に至ったそうです。

ネット環境はもはや生活や仕事に不可欠だが、すべて便利過ぎるものには注意がいるようです。

米国では現在、「ネット安息日」を設ける人が増えたと報告されていました。